Global Corporate Overview

武田薬品工業株式会社
会社概要

Better Health, Brighter Future

2022年6月更新

重要な注意事項

本注意事項において、「プレゼンテーション（presentation）」とは、本プレゼンテーションにおいて武田薬品工業株式会社（以下、「**武田薬品**」）によって説明又は配布された本書類、口頭のプレゼンテーション、質疑応答及び書面又は口頭の資料を意味します。本プレゼンテーション（それに関する口頭の説明及び質疑応答を含みます）は、いかなる法域においても、いかなる有価証券の購入、取得、申込み、交換、売却その他の処分の提案、案内若しくは勧誘又はいかなる投票若しくは承認の勧誘のいずれの一部を構成、表明又は形成するものではなく、またこれを行うことを意図しておりません。本プレゼンテーションにより株式又は有価証券の募集を公に行うものではありません。米国 1933 年証券法に基づく登録又は登録免除の要件に従い行うものを除き、米国において有価証券の募集は行われません。本プレゼンテーションは、（投資、取得、処分その他の取引の検討のためではなく）情報提供のみを目的として受領者により使用されるという条件の下で（受領者に対して提供される追加情報と共に）提供されております。当該制限を遵守しなかった場合には、適用のある証券法違反となる可能性がございます。

武田薬品が直接的に、又は間接的に投資している会社は別々の会社になります。本プレゼンテーションにおいて、「武田薬品」という用語は、武田薬品及びその子会社全般を参照するものとして便宜上使われているこ とがあり得ます。同様に、「当社（we、us及びour）」という用語は、子会社全般又はそこで勤務する者を参照していることもあり得ます。これらの用語は、特定の会社を明らかにすることが有益な目的を与えない場 合に用いられることもあり得ます。

本資料に記載されている製品名は、武田薬品または各所有者の商標または登録商標です。

将来に関する見通し情報

本プレゼンテーション及び本プレゼンテーションに関して配布された資料には、武田薬品の見積もり、予測、目標及び計画を含む当社の将来の事業、将来のポジション及び業績に関する将来見通し情報、理念又は見解 が含まれています。将来見通し情報は、「目標にする（targets）」、「計画する（plans）」、「信じる（believes）」、「望む（hopes）」、「継続する（continues）」、「期待する（expects）」、「めざす （aims）」、「意図する（intends）」、「確実にする（ensures）」、「だろう（will）」、「かもしれない（may）」、「すべきであろう（should）」、「であろう（would）」「することができた（could）」、 「予想される（anticipates）」、「見込む（estimates）」、「予想する（projects）」などの用語若しくは同様の表現又はそれらの否定表現を含むことが多いですが、それに限られるものではありません。これら将 来見通し情報は、多くの重要な要因に関する前提に基づいており、実際の業績は、将来見通し情報において明示又は暗示された将来の業績とは大きく異なる可能性があります。その重要な要因には、日本及び米国の一 般的な経済条件を含む当社のグローバルな事業を取り巻く経済状況、競合製品の出現と開発、世界的な医療制度改革を含む関連法規の変更、臨床的成功及び規制当局による判断とその時期の不確実性を含む新製品開発 に内在する困難、新製品および既存製品の商業的成功の不確実性、製造における困難又は遅延、金利及び為替の変動、市場で販売された製品又は候補製品の安全性又は有効性に関するクレーム又は懸念、新規コロナウ イルス・パンデミックのような健康危機が、当社が事業を行う国の政府を含む当社とその顧客及び供給業者又は当社事業の他の側面に及ぼす影響、買収対象企業とのPMI（買収後の統合活動）の時期及び影響、武田薬 品の事業にとっての非中核事業を売却する能力及びかかる資産売却のタイミング、当社のウェブサイト(https://www.takeda.com/investors/reports/sec-filings/)又はwww.sec.gov において閲覧可能な米国証券取 引委員会に提出したForm 20-Fによる最新の年次報告書及び当社の他の報告書において特定されたその他の要因が含まれます。武田薬品は、法律や証券取引所の規則により要請される場合を除き、本プレゼンテーショ ンに含まれる、又は当社が提示するいかなる将来見通し情報を更新する義務を負うものではありません。過去の実績は将来の経営結果の指針とはならず、また、本プレゼンテーションにおける武田薬品の経営結果は武田薬品の将来の経営結果又はその公表を示すものではなく、その予測、予想、保証又は見積もりではありません。

医療情報

本プレゼンテーションには、製品についての情報が含まれておりますが、それらの製品は、すべての国で発売されているものではありませんし、また国によって異なる商標、効能、用量等で販売されている場合もあります。ここに記載されている情報は、開発品を含むいかなる医療用医薬品の勧誘、宣伝又は広告するものではありません。

「私たちは、患者さんやそのご家族、そして

医療関係者の皆様にとって、

何が一番大切なのかを常に考えています。

これまでの実績に満足することなく、

患者さんのより良い未来のために、

私たちができることを継続してまいります。」

クリストフ・ウェバー

代表取締役 CEO

患者さんを支えて

240年以上

タケダについて

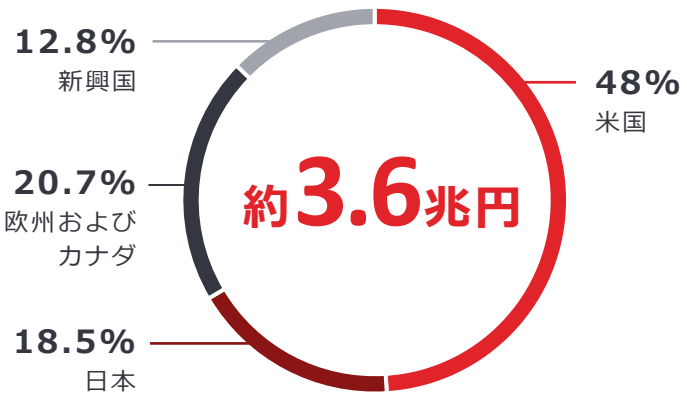
医薬品を越えて
責任ある成長を遂げ、社会に価値を提供する

私たちの中に深く浸透しているタケダの価値観は、
一番大切にすべきことのためにビジネスをどのように
行うかを導く行動指針となっています。

すべての意思決定において患者さんを最優先とし、
人々と信頼関係を築き、社会的評価を向上させる。
従業員は存在意義（パーパス）の実現に向かって事業に
取り組み、株主や社会に持続的な価値を提供します。

グローバルなバイオ医薬品企業

2021年度売上収益



30 製造拠点

3 研究拠点

東京証券取引所コード番号：**4502**
ニューヨーク証券取引所ティッカーシンボル：**TAK**

グローバル拠点

約80 の国・地域
2022年3月時点

グローバルハブ
米国
マサチューセッツ州
ボストン地区
ケンブリッジ

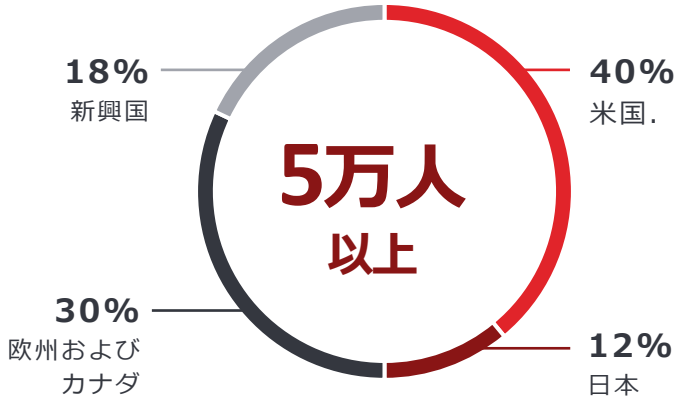
創業
1781年
大阪 道修町

グローバル本社
東京 日本橋

従業員

TOP EMPLOYER® 認定
39
の国および4の地域
2022年1月時点

52% 女性
48% 男性
2022年3月時点



2022年3月時点

タケダの企業理念

私たちの存在意義	世界中の人々の健康と、輝かしい未来に貢献する
私たちが目指す未来	すべての患者さんのために、ともに働く仲間のために、 いのちを育む地球のために。 私たちはこの約束を胸に、革新的な医薬品を創出し続けます。
私たちの価値観: タケダイズム	タケダイズムとは、まず誠実であること。それは公正・正直・不屈の精神で支えられた、私たちが大切にしている価値観です。 私たちはこれを道しるべとしながら、「1. 患者さんに寄り添い (Patient) 2. 人々と信頼関係を築き (Trust) 3. 社会的評価を向上させ (Reputation) 4. 事業を発展させる (Business)」を日々の行動指針とします。

私たちの約束

PATIENT
すべての患者さんのために

- 私たちは、倫理観をもってサイエンスの革新性を追求します。そして、人々の暮らしを豊かにする医薬品の創出に取り組みます。
- 私たちの医薬品を、より多くの人々に迅速にお届けします。

PEOPLE
ともに働く仲間のために

- 私たちは、理想的な働き方を実現します。

PLANET
いのちを育む地球のために

- 私たちは、自然環境の保全に寄与します。

データとデジタルの力で、イノベーションを起こします

- データを活用して導き出された成果をもとに、もっとも信頼されるバイオ医薬品企業として、これからも変革し続けます。

これからの働く環境を導く独自の文化と価値観

大阪の一商店からグローバルなバイオ医薬品企業のリーディングカンパニーに成長するまで、私たちは価値観を受け継ぎ、患者さんやともに働く仲間、いのちを育む地球に対する責任を果たすことを約束してきました。そして、数多くのすばらしいストーリーが生まれました。

「人」を第一に考える私たちの想いは、患者さんだけでなくそのご家族や地域社会、そしてタケダの従業員や家族にまでおよびます。人に対する情熱を原動力に私たちは日々仕事をし、価値ある行動に発展させます。

さまざまな患者さんがいるように、私たちの働く環境もまた多様性をもち、違いを認め合う姿勢と公平性が必要です。タケダはそんな職場環境づくりを目指しています。

世界的な評価

タケダの職場環境や従業員への待遇は世界中で評価を受けています。

top EMPLOYER GLOBAL 2022
CERTIFIED EXCELLENCE IN EMPLOYEE CONDITIONS

BEST PLACES TO WORK for LGBTQ Equality 2021
100% CORPORATE EQUALITY INDEX

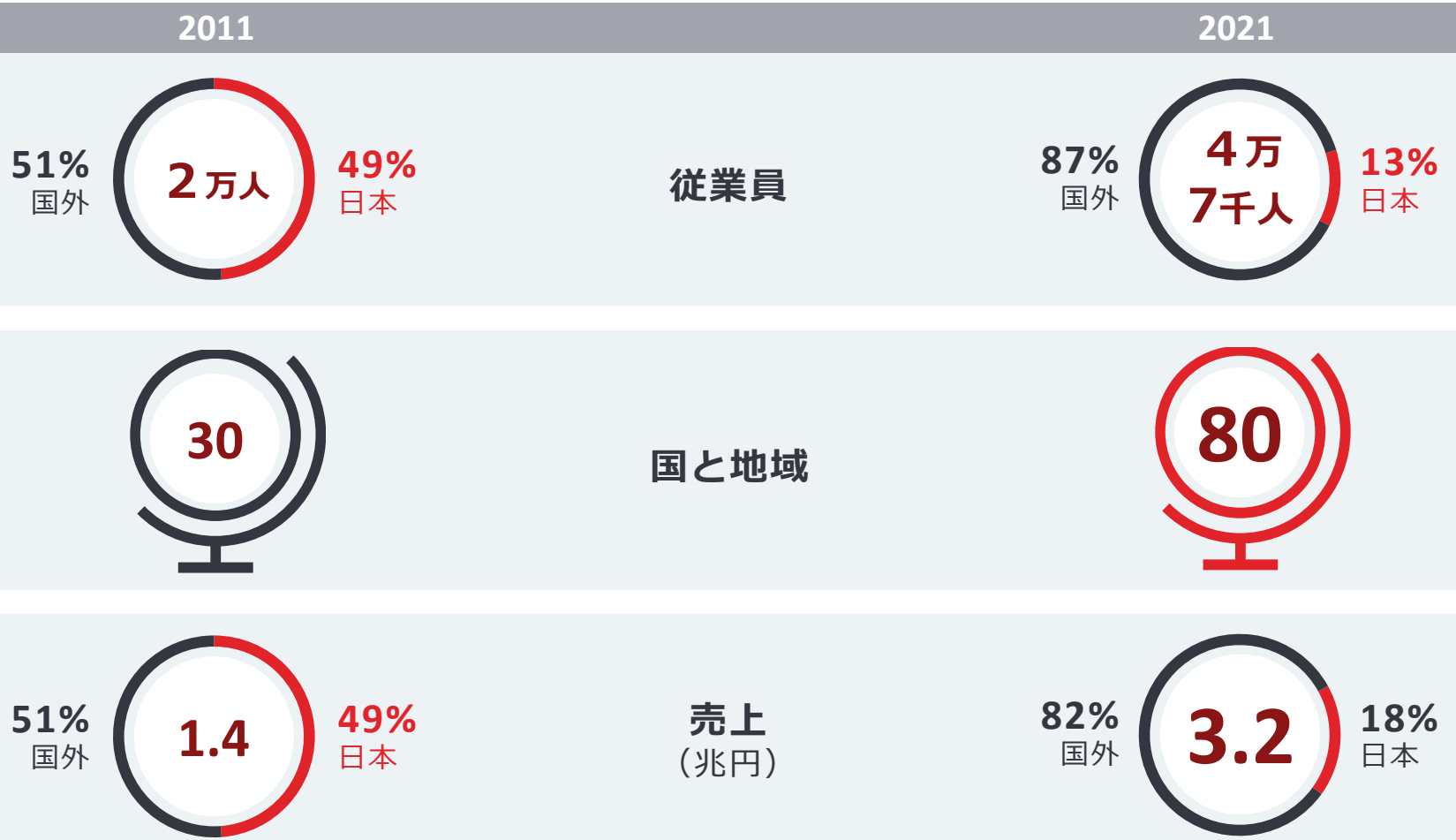
Science 2020 TOP EMPLOYER

独自の文化

企業理念を具体化したのが「The Hirameki ～インスピレーションのひろば」です。タケダの歴史と伝統を象徴したバーチャル空間で、この空間体験によって従業員はタケダの文化について理解を深めています。

グローバル化の道のり

2011年からの10年間で、タケダは世界トップクラスのバイオ医薬品企業への変革を果たし、長期的な事業成長の基盤を確立しました。世界中のより多くの患者さんに貢献するために、日本史上最大規模の海外企業買収を実施し、グローバル市場を獲得しました。研究開発パイプラインは魅力ある新薬候補により拡充し、グローバル製品を含むポートフォリオは力強い成長を続けています。



タケダ・エグゼクティブ・チーム

クリストフ・ウェバー
代表取締役社長 CEO

アンドリュー・プランプ
取締役、
リサーチ＆デベロップメント
プレジデント

コスタ・サルウコス
取締役、チーフ フィナンシャル
オフィサー

ガブリエレ・リッチ
チーフ データ＆テクノロジー
オフィサー

佐藤 弘毅
コーポレート ストラテジー
オフィサー＆CEOオフィス

**ジャイルズ・
プラットフォード**
PDTビジネスユニット
プレジデント

ジュリー・キム
U.S.ビジネスユニット
プレジデント

国籍
9カ国

年齢
30-60代

女性比率
33%

ジェラード・グレコ
グローバル クオリティ
オフィサー

ローレン・デュプレイ
チーフ HR オフィサー

マルチェロ・アゴスティ
グローバル
ビジネスデベロップメント
オフィサー

岩﨑 真人
代表取締役
日本管掌

古田 未来乃
ジャパンファーマ
ビジネスユニット
プレジデント

ラモナ・セケイラ
グローバル ポートフォリオ
ディビジョン
プレジデント

トーマス・ウォスニフスキー
グローバル
マニュファクチャリング&
サプライ オフィサー

ムワナ・ルゴゴ
チーフ エシックス＆
コンプライアンス
オフィサー

大薮 貴子
チーフ グローバル コーポレート
アフェアーズ＆サステナビリティ
オフィサー

中川 仁敬
グローバル ジェネラル
カウンセル

テレサ・ビテッティ
グローバルオンコロジー
ビジネスユニット
プレジデント

私たちのイノベーション

まだない治療法を待つ患者さんのために。
私たちは、強固なパートナーシップ・モデルのもと、
パートナーとともに革新を起こすイノベーターです。

世界に誇る研究拠点が互いに連携し、最先端のサイエンスを駆使して、多様なモダリティ（治療手段）を網羅するパイプラインを拡充しています。データ＆デジタルの力を活用して治療法に革命を起こし、患者さんの体験（エクスペリエンス）を向上させます。

20以上の病気に対応する医薬品

私たちは、病気の認識から診断、デジタルヘルスやデバイス、
エビデンスに基づいた総合的なソリューションの提供など
これまで対応されてこなかったニーズに注力しています。

ニューロサイエンス

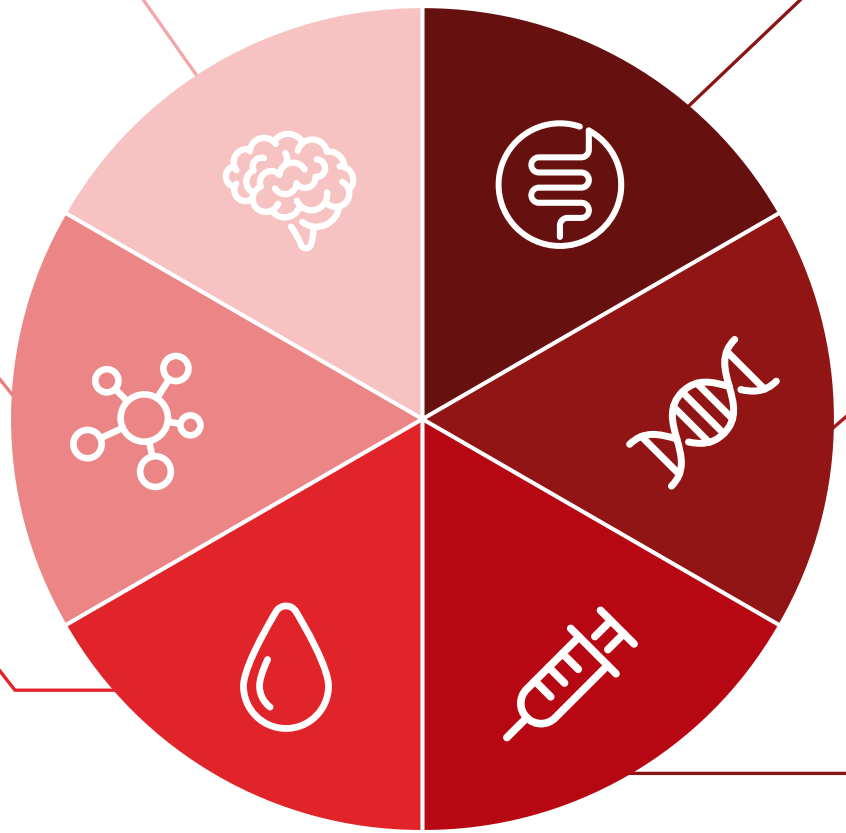
- 注意欠陥多動性障害 (ADHD)
- 大うつ病（MDD）

オンコロジー

- 多発性骨髄腫
- 非小細胞肺がん

血漿分画製剤

- 免疫不全および自己免疫疾患
- 原発性免疫不全症候群（PI）
- α-1アンチトリプシン欠乏症



消化器系疾患

- 潰瘍性大腸炎
- クローン病
- クローン病に伴う
  肛門周囲複雑瘻孔
- 短腸症候群

希少疾患

- ハンター症候群
- ゴーシェ病1型
- ファブリー病
- 遺伝性血管性浮腫（HAE）
- 血友病A
- フォン・ヴィレブランド病
- 副甲状腺機能低下症
- サイトメガロウイルス（CMV）感染症

ワクチン[1]

- デング熱
- 新型コロナウィルス感染症

1 パートナーシップおよび臨床プログラムを含む。詳細は現在のパイプラインを参照。

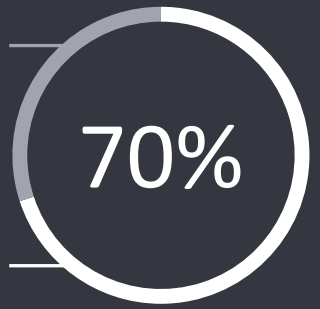
研究開発

タケダは、世界中の人々の健康と、輝かしい未来に貢献するために存在します。
サイエンスや技術が進化しても、私たちの志は変わりません。
サイエンスを推し進め、より多くの患者さんの生活を変えていきます。

約40
臨床試験段階にある
新規医薬品候補

新規作用機序品目で構成する強固なパイプライン

約50%
オーファンドラッグ（希少疾病用医薬品）指定品がパイプラインに占める割合



- 生物学的製剤
- 細胞療法・遺伝子治療
- 腸内細菌・その他モダリティ
- ペプチド・オリゴヌクレオチド

多様なモダリティ（治療手法）

血液がん、固形がんにおいて複数のファースト・イン・クラスの免疫療法候補の開発を進めるとともに、小児の希少疾患の開発も進めています。

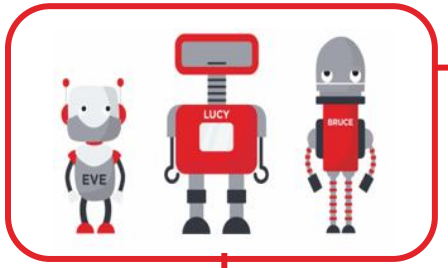
200+

積極的なパートナーシップ

パイプラインの60%以上をパートナーシッププログラムが占め、サイエンスとイノベーションの最前線で研究開発を進めています。スタートアップ企業、バイオテック企業、アカデミア等、さまざまな外部パートナーと連携し革新的なアイデアを共有しています。

デジタル活用の進化

- **ITインフラ**
  血漿分画製剤では、データ・デジタルを活用したビジネスモデルを構築しています。
- **バーチャルリアリティ（VR）**
  製造部門の面接や研修で活用されています。
- **拡張現実（AR）**
  国内オンコロジー部門で医療従事者との面談に活用されています
- **AI コラボレーション**
  マサチューセッツ工科大学との提携により患者さんの課題を解決しています
- **オートメーション（自動化）**
  RPA（ロボティック・プロセス・オートメーション）によって業務の効率化を図っています。



MIT-Takeda Program

これからもあらゆる場面でデジタルを活用し、
患者さんにより貢献できるよう
私たちの働き方を進化させていきます。

私たちの存在意義を果たすためのサステナビリティ

私たちには、自らの強みと能力を十分に生かし、社会的価値を創造していく責任があります。未だ満たされていない医療ニーズへの対応、持続可能な医療システムの確立、気候変動対策、多様で包括的な働きがいのある組織づくりなど、社会の重要な課題の解決に貢献できるよう努めています。このアプローチを「私たちの存在意義を果たすためのサステナビリティ」と呼んでいます。

Access to Medicines　医薬品へのアクセス向上をめざして

医薬品アクセス（Access to Medicines, AtM）プログラムでは、世界の医療サービスが十分でない地域で、重篤な疾患をもつ患者さんなど、多くの患者さんの生活が向上するような取り組みを続けています。

ヘルスシステム強化プログラム

ヘルスシステム強化プログラムでは、世界中の医薬品アクセスの向上に取り組んでいます。

アフリカ・サハラ砂漠南部地域における「ブループリント」や「BVGHプログラム」によって、これまで20万人以上の人に、がんや糖尿病、高血圧のスクリーニング検査を実施しました。また、12,000人以上の治療が必要とされる方を診断し、3,300人以上の医療従事者やコミュニティヘルスワーカーの皆さんへトレーニングを実施しました。 Data up to September 2021

革新的な費用負担プログラム

「革新的な患者さんの医療費負担および慈善アクセスプログラム」は、革新的な医薬品に対するアクセスを向上させるプログラムで、世界55以上の国と地域で実施されています。

このプログラムにより、4,500人以上の患者さんの医療費負担の問題解決をサポートしました。

Data up to December 2021

信頼を築く

Access to Medicine Index 2021において、総合第６位、さらに「医薬品アクセスのガバナンス」のカテゴリーにおいては首位を獲得しました。

2020 Access to Medicines Progress Report（英語のみ）の詳細を見る (TAKEDA.COM)

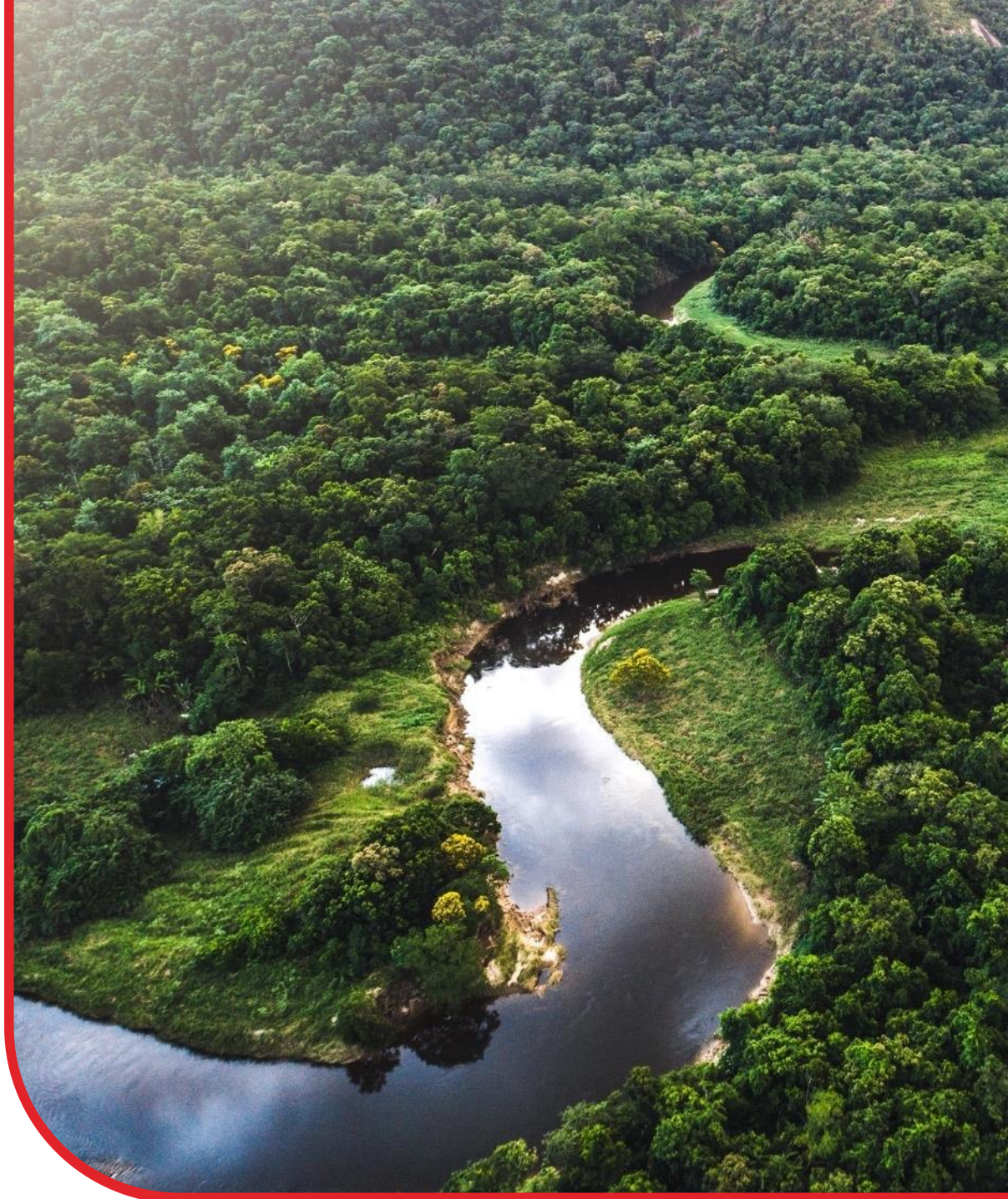
ESGが導く持続可能な価値

私たちは、人類が様々な生命体と共有する地球環境を守り、持続させていくためのイノベーションを推進することを優先しています。

地球環境の健全性を脅かすリスクは、すなわち人々の健康にも影響を及ぼします。私たちが根絶に取り組んでいる感染症のまん延もその一例です。

国際的な環境非営利組織 CDPの
気候変動レポート2021の
A－（マイナス）評価を受けました。

CDP SUPPORTER 2021



いのちを育む地球のための、グローバル全体でのアクション

2020年度までに
バリューチェーン全体で
カーボンニュートラルを達成
その状態を維持

2024年度までに
サプライヤーの67%が
科学的根拠に基づいた
削減目標を設定

2025年度までに
事業活動に起因する
温室効果ガス排出量を
2016年度比で40%削減

2021

可能エネルギー100%

光、成田、泉佐野、湘南（R&D）

日本の工場や研究所で使用する電力は100%グリーン電力です。これにより年間30%のCO2排出量を削減しています。

天然ガスから
グリーンスチームへの転換

米国マサチューセッツ州
ケンブリッジ

転換によってビル運用時の温室効果ガス排出量を40～50%削減しています。

太陽光発電設備の導入

米国カリフォルニア州
ロサンゼルス

年間の電力購入量を約833MWh削減し、温室効果ガス排出量は約280トン-CO2削減しています。

ゼロ・エネルギー・ビル

シンガポール

タケダ製造拠点初の「ゼロ・カーボン・エミッション」ビルを着工。シンガポール政府の「ゼロ・エネルギー・ビル・スキーム」に沿ったビルです。

いのちを育む地球のための、グローバル全体でのアクション

2025年度までに
医薬品の2次・3次包装に使われる紙やファイバーボードの50%を、リサイクル素材または森林認証素材に変更

FY2025年度までに
廃棄物の90%以上を埋め立て以外で処理

2040年度までに
サプライヤーの排出量を2018年度比で50%削減

2040年度までに
事業活動全体で温室効果ガス排出量ネットゼロを達成

2040

90%の水をリサイクル
ベルギー・レシーヌ

製薬業界初の大規模な廃水リサイクル施設です。

サプライヤーとの連携
「Energize」プログラム

製薬企業10社による初めての取り組み。サプライヤーによる再生可能エネルギー利用を促進します。

医薬品の開発から持続可能性へ配慮

製薬業界初のプロセスにより、研究開発に「グリーンケミストリー」原則を導入し、製造工程における水の利用量を削減しました

持続可能な未来に向けた戦略的な取り組み

グローバルCSRを通じて、疾病予防の進歩を早め、医療従事者がいきいきと働き、想定外の事態に対処できる強固な医療システムを構築することで、質の高い医療が提供され疾患の負担が軽減される、そんな健康的で輝かしい未来を築くことを目指しています。

グローバルCSRプログラム

74
国・地域で活動

毎年、従業員による投票でプログラムを決定

162億円
2016年度から2021年度までの合計寄付金額

20
グローバルCSRプログラム

グローバルCSRパートナー

多国籍でアカデミックな団体と協働

ASIAN UNIVERSITY FOR WOMEN

THE GLOBAL FUND

LONDON SCHOOL of HYGIENE &TROPICAL MEDICINE

グローバルCSRプログラムの詳細を見る (TAKEDA.COM)

19

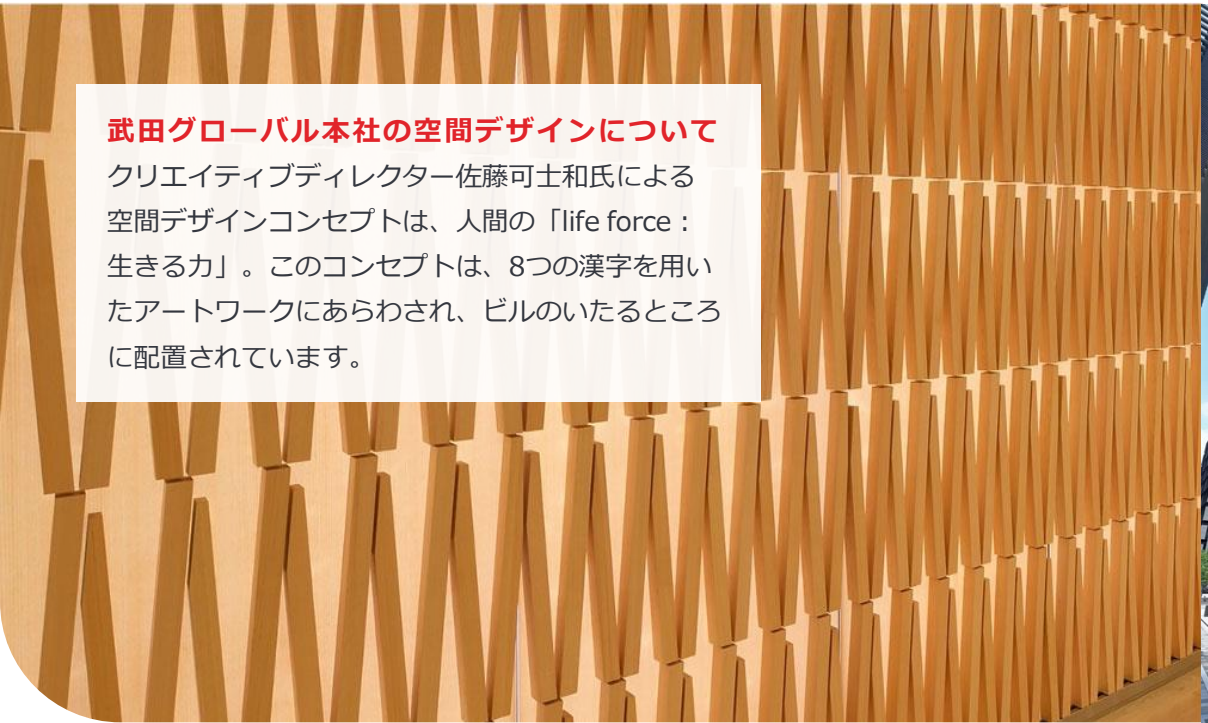
製品情報に関する注意事項

本会社案内には、武田薬品の製品についての情報が含まれていますがそれらの製品は、すべての国で発売されているものではなく、また国によって 異なる商標、効能、用量などで販売されている場合もあります。また、本会社案内に記載されている医薬品(開発品を含む)の情報は、そのような製品を 宣伝・広告するものではありません。会社案内に記載されている製品に関する情報は、医学的アドバイスの提供を目的とするものではなく、決して、医師その他医療従事者によるアドバイスの代わりになるものではありません。

詳細はウェブサイトをご覧ください

www.takeda.com/jp

発行月: 2022年6月
発行元：グローバル コーポレート アフェアーズ



武田グローバル本社の空間デザインについて

クリエイティブディレクター佐藤可士和氏による空間デザインコンセプトは、人間の「life force：生きる力」。このコンセプトは、8つの漢字を用いたアートワークにあらわされ、ビルのいたるところに配置されています。

Appendix

タケダの歴史 1781年～1979年

FOR BUSINESS

1781
COMPANY FOUNDED
初代近江屋長兵衛が大阪で薬種仲買商を始め、高品質の薬を提供

1871
INTERNATIONAL TRADE
洋薬（西洋医薬品）の輸入を開始

1895
PRODUCTION
自社工場で製薬事業を開始

1914
PROPRIETARY RESEARCH
研究部を設立
自社で研究活動を開始

1915
OSAKA FACTORY
大阪工場の前身である武田製薬所を開設

1940
“NORI” PRINCIPLES
タケダイズムの礎となる「規（のり）」を制定

1943
COMPANY NAME
社名を現在の武田薬品工業に変更

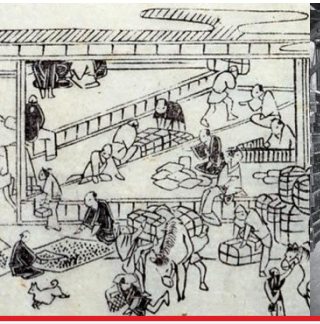
1946
HIKARI FACTORY
山口県 光工場を開設

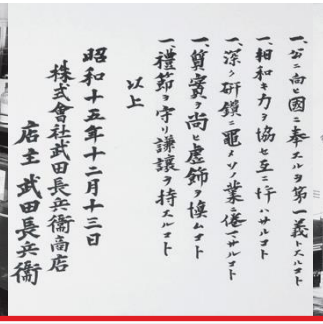
1949
INITIAL PUBLIC OFFERING
株式を上場
株式公開企業に

1950s
PANVITAN® & ALINAMIN®
日本初の総合ビタミン剤およびビタミンB1誘導体製剤を発売

1951
INTERNATIONAL BUSINESS
北中米、アジアを皮切りに海外市場に本格参入

1961
COMPANY LOGO
輸出向け商標として「抱き山タケダ」を使用開始




昭和十五年十二月十三日
株式會社武田長兵衛商店
店主 武田長兵衛
以上

FOR SOCIETY

1933
TAKEDA GARDEN
「京都薬用植物園」を開設し世界各地の薬用・有用植物を収集・活用

1960
SHOSHISHA FOUNDATION
優秀な学生を支援し将来の社会に貢献できるよう、育英事業を目的とする「尚志社」を設立

1963
TAKEDA SCIENCE FOUNDATION
有望な研究および科学技術の助成振興のため「武田科学振興財団」を設立

タケダの歴史 1980年～現在

FOR BUSINESS

1980s & 90s
EXPANSION OF INTERNATIONAL BUSINESS
4つの国際戦略製品「リュープロレリン」、「ランソプラゾール」、「カンデサルタン」、「ピオグリタゾン」によりグローバル事業の拡大が加速

2008
MILLENNIUM PHARMACEUTICALS
米国のバイオベンチャーであるミレニアム社を買収し、がん領域を強化

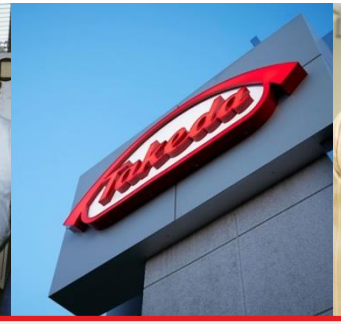
2011
NYCOMED ACQUISITION
新興国に強い販路を持つナイコメッド社を統合し、事業基盤を70カ国以上に拡大

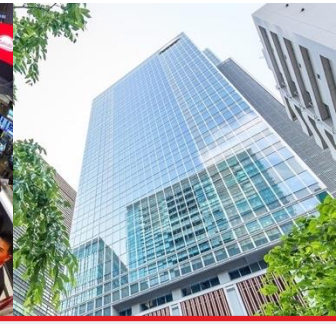
2014
VEDOLIZUMAB
潰瘍性大腸炎・クローン病治療薬「ベドリズマブ」を米国および欧州で発売

2015
IXAZOMIB
多発性骨髄腫治療薬「イキサゾミブ」米国で発売

2018
NEW YORK STOCK EXCHANGE LISTING
ニューヨーク株式市場への上場により、ニューヨーク証券取引所と東京証券取引所の双方に上場されている唯一の医薬品企業に
SHONAN HEALTH INNOVATION PARK
湘南にヘルスイノベーションを加速するiPark をグランドオープン
TAKEDA GLOBAL HEADQUARTERS
武田グローバル本社をグランドオープン、多様性に富む従業員がオープンにつながり、ともにイノベーションに取り組む拠点へ

2019
SHIRE ACQUISITION
シャイアー社の買収により、事業拠点は約80の国・地域に拡大し、グローバルな研究開発型バイオ医薬品のリーディングカンパニーへ





FOR SOCIETY

2009
UNITED NATIONS GLOBAL COMPACT
「国連グローバル・コンパクト」に参加

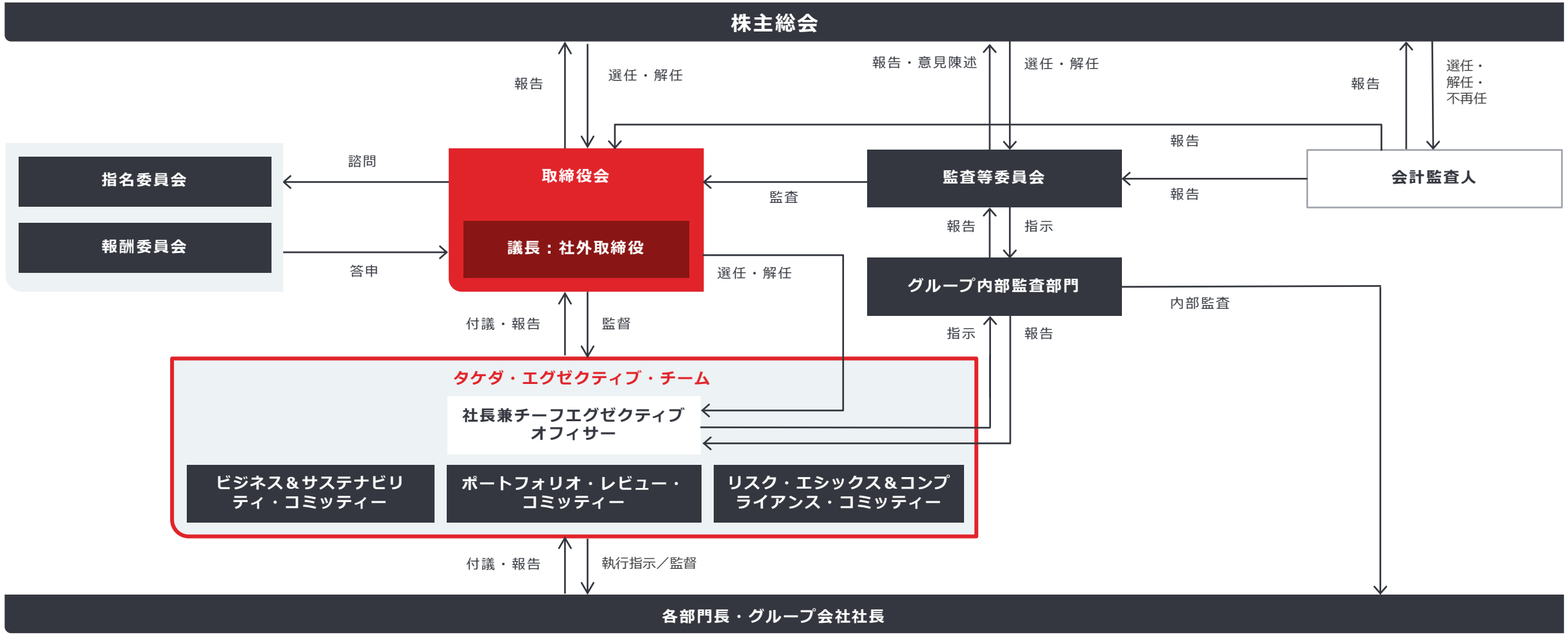
2010
TAKEDA INITIATIVE
アフリカの保健医療人材の育成を支援する「タケダ・イニシアティブ」を開始

2016
ACCESS TO MEDICINES
医薬品アクセスに関する取り組みを開発国を中心に開始
GLOBAL CSR PROGRAM
疾病予防に重点を置いた支援活動「グローバルCSRプログラム」を開始.

2019
TAKEDA INITIATIVE 2
母子を対象にHIV・結核・マラリアの対策を支援する「タケダ・イニシアティブ２」を開始

コーポレート・ガバナンス体制

先進的かつ強固なコーポレートガバナンスモデルは、
これまでも、これからも、タケダが成功する上で極めて重要です。



コーポレート・ガバナンスの詳細を見る (TAKEDA.COM)

取締役体制

取締役会は、タケダにおけるすべての意思決定や事業活動が価値観に沿って行われ、ステークホルダーの皆さんに有益であることを審議する責任を担います。取締役16名のうち12名は独立社外取締役で、多様でグローバルな知見をもたらしています。

社内取締役

クリストフ・ウェバー

代表取締役社長
チーフ エグゼクティブ オフィサー

岩﨑 真人

代表取締役
日本管掌

アンドリュー・プランプ

取締役、リサーチ＆デベロップメント プレジデント

コスタ・サルウコス

取締役、チーフ フィナンシャル オフィサー

CB 取締役会議長　A&SC 監査等委員会

NC 指名委員会[2]　CC 報酬委員会

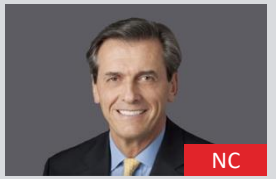
独立社外取締役[1]

坂根 正弘

独立社外取締役
取締役会議長
指名委員会委員長

オリビエ・ボユオン

独立社外取締役



ジャン=リュック・ブテル

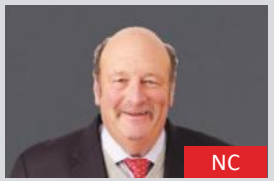
独立社外取締役

イアン・クラーク

独立社外取締役

藤森 義明

独立社外取締役



スティーブン・ギリス

独立社外取締役

国谷 史朗

独立社外取締役

志賀 俊之

独立社外取締役

初川 浩司

独立社外取締役
監査等委員長

東 恵美子

独立社外取締役
報酬委員会委員長

ミシェル・オーシンガー

独立社外取締役

飯島 彰己

独立社外取締役

1. 東京証券取引所等の当社が上場している金融商品取引所の独立役員の要件を満たしています　2. クリストフ・ウェバーがオブザーバーとして参加